

《論文》

2008年度シーズンにおける流通経済大学ラグビー部の 公式戦ゲーム様相

伊藤 寿彦, 黒岩 純, 西機 真, 荒川 崇, 伊藤 武,
内山 達二, 筒井 健裕, 李 應柱, 中山 正和, 松尾 勝博,
上野 裕一

RKU Rugby Football League Match Analysis 2008

Toshihiko ITO, Jun KUROIWA, Makoto NISHIKI, Takashi ARAKAWA, Takeshi ITO,
Tatsuji UCHIYAMA, Takehiro TSUTSUI, Unju LEE, Masakazu NAKAYAMA,
Katsuhiko MATSUO, Yuichi UENO

キーワード:

Keywords:

【諸言】

2008年度, 本学ラグビー部は, 関東大学リーグ戦1部において2勝3敗2引き分けの5位という成績でシーズンを終えた。その後全国大学選手権大会に出場したが, 1回戦において敗退するという結果であった。これは我々にとって, 決して満足できる結果ではない。しかしながら, その結果を常に客観的に分析し, チームパフォーマンスを改善させていくことは非常に重要なことである。年度当初に立てた成果目標がある。それを達成するための戦略を計画し, 実行する。具体的な指標を使って結果の状況をモニタリングし, パフォーマンスを評価するわけである。その一環として, このゲーム様相の分析を毎年実施している。この報告も, 2006年度

から数えて3回目となる¹⁾²⁾。

2008-2009シーズン, ラグビーフットボール競技において大きな変化があった。試験的実施ルールELV(Experimental Law Variations)³⁾(以下ELV)の施行である。ELVは, IRB(International Rugby Board=国際ラグビーボード)理事会において決定された競技規則改正の試用である。2008年8月より国際的にすべてのレベルの試合で1年間試験的に実施するというものである。その内容は, スクラムの際のオフサイドラインの5m後退, タッチキックの規制など13項目にわたっている。ELVは, ゲームをよりダイナミックにそしてスピーディーに変化させることを意図している。上記の競技規則などの変化から, インプレー時間の増加, スクラムからの攻防の変化, カウンター

アタックの増加などが予測される。その結果、ゲームの様相にも大きな変化をもたらすと考えられる。

本研究は、2006年度より継続しているゲーム様相の分析を引き続き実施したものである。2007年度の報告と比較検討することで、本学ラグビー部の2008年度のゲームの様相を明らかにすること、ELVがゲームに及ぼす影響を調べることを目的とした。

【方法】

対象：分析対象のゲームは2008年度関東大学リーグ戦1部に所属する、To大学、H大学、K大学、N大学、C大学、Ta大学、D大学との対戦ゲームであった。公式戦に出場した本学ラグビー部の選手は、合計で26名、全て男子、年齢は19～25歳であった。

分析方法：対象ゲームはデジタルビデオカメラで全て撮影、記録。その映像をゲーム分析ソフトPowerAnalysis（スマイルワークス社製）を使用してデータベース化し、ゲームの評価、分析を行った。

：先行研究⁴⁾に基づき、試合結果 (GAME RESULTS)、総得点と得点方法 (SCORING PROFILES)、キック (KICKING)、トライ (TRIES)、セットプレイ (SETPLAY)、ペナルティー (PENALTIES)、カード提示 (RED AND YELLOW CARDS ISSUED) について分析した。

1. 2008年度リーグ戦1部勝敗表 (GAME RESULTS)
2. 総得点と得点方法 (SCORING PROFILES)
 - 2-1. リーグ戦全体での全得点
 - 2-2. リーグ戦での平均得点
 - 2-3. リーグ戦における1TRY得失所要時間
3. キック (KICKING)
 - 3-1. キック成功率
 - 3-2. 地域別にみたキック成功率
4. トライ (TRIES)
 - 4-1. トライ数
 - 4-2. トライ起点
 - 4-3. トライ起点エリア
 - 4-4. トライへの軌跡
 - 4-5. トライまでのパス回数
 - 4-6. トライまでの所要時間
 - 4-7. 得点の時間帯
 - 4-8. 失トライ数
 - 4-9. 失トライ起点
 - 4-10. 失トライ起点エリア
 - 4-11. 失トライ軌跡
 - 4-12. 失トライまでのパス回数
 - 4-13. 失トライまでの所要時間
 - 4-14. 失トライの時間帯
5. セットプレイ (SETPLAY)
 - 5-1. ラインアウトの1試合平均回数
 - 5-2. ラインアウトの再獲得回数
 - 5-3. スクラムの1試合平均回数
 - 5-4. スクラムの再獲得回数
 - 5-5. キックオフの1試合平均回数
 - 5-6. キックオフの再獲得率
6. ペナルティー (PENALTIES)
 - 6-1. 流通経済大学7試合合計反則回数
 - 6-2. 1試合平均反則回数

6-3. 7試合合計反則回数

6-4. ペナルティーの分類

7. カード提示

(RED AND YELLOW CARDS
ISSUED)

1. GAME RESULTS

1-1. 2008年度リーグ戦1部勝敗表

2008年度のリーグ戦の結果は、以下に示す通りであった。本学ラグビー部の成績は2勝2分3敗で第5位であった。

2. SCORING PROFILES

2-1. リーグ戦全体での全得点

2008年度リーグ戦における本学の全得点は103点であった。2007年度リーグ戦における全得点は81点であった。2008年度は2007年度の本学との全得点と比較すると22点増加した結果となった。本学の試合での得点は増加傾向にあり、TRY:Conversion:PG(得点比)得点の比率の中ではTRYが14%、Conversionの比率3%増加し、PGの比率(16%)減少した結果となった。(表2)(表3)

表1. 2008年度リーグ戦1部勝敗表

順位	チーム	勝点	勝数	分数	負数	T	G	PG	DG	得点	失点	点差
1	To大学	28	7	0	0	45	24	2	0	279	70	209
2	H大学	25	6	0	1	31	23	7	0	222	94	128
3	K大学	22	5	0	2	36	24	1	0	231	101	130
4	N大学	17	3	1	3	16	15	8	0	134	169	-35
5	流通経済大学	15	2	2	3	17	6	2	0	103	182	-79
6	C大学	14	2	1	4	17	12	4	0	121	186	-65
7	Ta大学	10	1	0	6	10	7	9	2	97	222	-125
8	D大学	7	0	0	7	13	6	3	0	86	249	-163

【順位決定方式】

リーグ戦の順位決定は勝ち点制で、勝ち：4点、引き分け：2点、負け：1点、棄権：0点
勝ち点が多ければ(1)直接対決で勝利を収めているチーム、(2)直接対決を通じてトライ数が多いチーム、(3)全試合を通じて得失点差が多いチーム、(4)全試合を通じてトライ数が多いチームの順で順位を決める。

3校が同じ勝ち点で並んだ場合は(1)当該3校間で勝利チーム、(2)当該3校の対戦での得失点が多いチーム、(3)当該3校の対戦でのトライ数が多いチーム、(4)全試合を通じて得失点差が多いチーム、(5)全試合を通じてトライ数が多いチームの順で順位を決める。

表2. 流通経済大学2008年度リーグ戦と、2007年リーグ戦との得点比

2007年度リーグ戦		2008年度リーグ戦		
合計得点	81	合計得点	103	
TRY (得点/数)	55/11	TRY (得点/数)	85/17	↑
CG (得点/数)	8/4	CG (得点/数)	12/6	↑
PG (得点/数)	18/6	PG (得点/数)	6/2	↓
DG (得点/数)	0/0	DG (得点/数)	0/0	→
TRY/CG/PG (得点比)	68:10:22	TRY/CG/PG (得点比)	82:12:6	

2-2. 平均得点

7試合の平均得点は40点であった。2007年度リーグ戦における1試合の合計得点は、200年度と比較して1点の差があった。

2008年度リーグ戦 40点

2007年度リーグ戦 41点

2008年度リーグ戦における得点差

最大得点差 34

(流通経済大学 10 対 To大学 44)

最小得点差 0

(流通経済大学 24 対 C大学 24)

0

(流通経済大学 17 対 N大学 17)

2007年度リーグ戦における得点差

最大得点差 64

(流通経済大学 9 対 K大学 73)

最少得点差 0

(流通経済大学 10 対 C大学 10)

2-3. リーグ戦全チームにおける1TRY得失所要時間

2008年度リーグ戦における本学の1試合でTRYを獲得するまでの所要時間は32分54秒と8チーム中4番目だった。8チーム全体の平均では30分43秒であった。

また2008年度リーグ戦における本学の1試合で

表3. 2008年度リーグ戦の平均得失点

Team	平均得点
To大学	39.8
K大学	33
H大学	31.7
N大学	19.1
C大学	17.2
流通経済大学	14.7
Ta大学	13.8
D大学	12.2

Team	平均失点
D大学	35.5
Ta大学	31.7
C大学	26.5
流通経済大学	26
N大学	24.1
K大学	14.4
H大学	13.4
To大学	10

2007年度リーグ戦の平均得失点

Team	平均得点
To大学	41.6
K大学	34
Ta大学	30
H大学	18
D大学	14
C大学	14
流通経済大学	11.6
R大学	11

Team	平均失点
Ta大学	34
流通経済大学	29.1
D大学	24
C大学	23
H大学	22
R大学	19
K大学	12
To大学	8.9

表4. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦の得点結果

2008年度	To大学	H大学	K大学	N大学	C大学	Ta大学	D大学
流通経済	10-44	12-45	0-27	17-17	24-24	25-15	15-10
総得点	54	57	27	34	48	40	25
2007年度	To大学	K大学	T大学	H大学	D大学	C大学	R大学
流通経済	8-31	9-73	24-62	5-8	6-8	10-10	19-12
総得点	39	82	86	13	14	20	31

1試合平均得点
40
1試合平均得点
41

表5. 2008年度リーグ戦の1TRY得失所要時間

Team	合計TRY数	1TRY獲るまでの所要時間
To大学	45	12分24秒
K大学	36	15分35秒
H大学	31	18分03秒
流通経済大学	17	32分54秒
C大学	17	32分54秒
N大学	16	35分00秒
Ta大学	10	56分00秒
D大学	13	43分04秒

Team	合計TRY数	1TRY獲られるまでの所要時間
D大学	38	14分42秒
Ta大学	30	18分36秒
流通経済大学	29	19分18秒
C大学	28	20分00秒
N大学	24	24分29秒
H大学	14	40分00秒
K大学	13	43分04秒
To大学	9	62分13秒

表6. 2007年度リーグ戦の1TRY得失所要時間

Team	合計TRY数	1TRY獲るまでの所要時間
To大学	43	13分01秒
K大学	37	12分58秒
Ta大学	28	20分00秒
H大学	16	30分00秒
C大学	15	37分20秒
D大学	13	43分04秒
流通経済大学	11	50分54秒
R大学	10	56分00秒

Team	合計TRY数	1TRY獲られるまでの所要時間
Ta大学	36	15分33秒
流通経済大学	30	18分36秒
C大学	23	24分20秒
D大学	23	24分20秒
H大学	22	21分48秒
R大学	20	28分00秒
K大学	10	48分00秒
To大学	8	70分00秒

K大学とH大学はK大学の棄権により6試合(480分)で計算

のTRYを喪失するまでの所要時間は19分18秒と8チーム中3番目となった。8チーム全体の平均では30分17秒となった。{1試合80分として}(表5)(表6)

- a. Conversion 36% (11回中4回成功)
- b. Penalty Goal 100% (6回中6回成功)
- c. Drop Goal 0% (0回)

3. KICKING

3-1. キック成功率

2008年度本学のリーグ戦キック成功率は以下に示す通りであった。コンバージョンゴールの成功率では昨年同様低い値を示し、ペナルティーゴールの成功率も昨年比べ低い値を示した。

2008年度リーグ戦(7試合)

- a. Conversion 35% (17回中6回成功)
- b. Penalty Goal 20% (10回中2回成功)
- c. Drop Goal 0% (0回)

2007年度リーグ戦(7試合)

2008年度キック成功率

キック成功率	キック数	成功	成功率
コンバージョン	17	6	35%
ペナルティーゴール	10	2	20%
ドロップゴール			

2007年度キック成功率

キック成功率	キック数	成功	成功率
コンバージョン	11	4	36%
ペナルティーゴール	6	6	100%
ドロップゴール			

3-2. 地域別にみたキック成功率

本学のキッカーは4人起用(右利き)し、コンバージョンゴールとペナルティーゴールを合わせた成功率は右サイドからは29%、中央から

地域	LEFT			MIDDLE			RIGHT		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
G/PG数	5	9	0	3	2	2	2	4	0
成功数	2	2	0	2	1	0	1	0	0
成功率	40%	22%		66%	50%	0%	50%	0%	

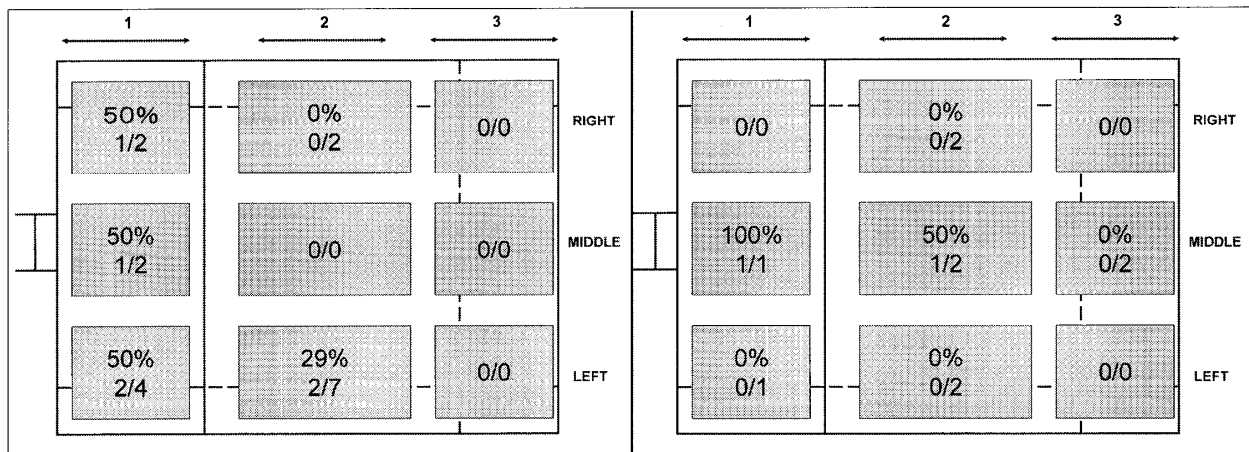


図1. 2008年度地域別にみたキック成功率

地域	LEFT			MIDDLE			RIGHT		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3
G/PG数	4	3	0	6	0	1	3	2	0
成功数	2	0	0	6	0	0	0	0	0
成功率	50%	0%		100%		0%	0%	0%	

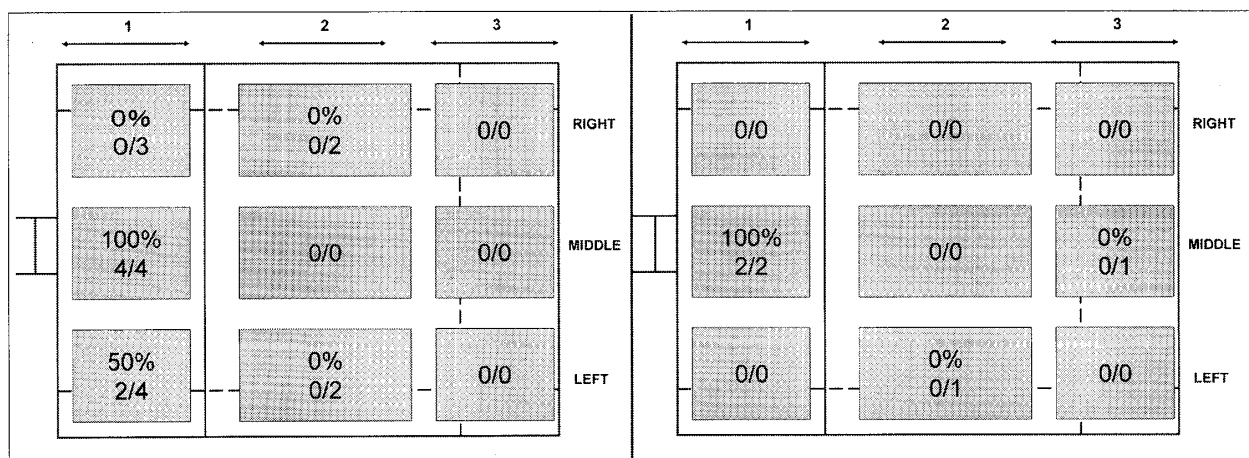


図2. 2007年度地域別にみたキック成功率

は43%，左サイドからは17%であった。昨年と比べ全てのエリアで成功率は低い値であった。(図1)(図2)

4. TRIES

4-1. トライ数

本学のリーグ戦全7試合でのトライは17であった。

4-2. トライ起点

2008年度7試合17トライ（1つ不明）のうち、トライが発生した起点はマイボールラインアウトとマイボールスクラムが全体の50%を占めた。2007年度同様セットプレイを起点としたトライが多い。キックカウンターを起点としたトライも昨年の9%から今年の38%と多いこともわかる。（表7）

4-3. トライ起点エリア

2008年度の本学は、相手陣全エリアでの起点が88%と高い値を示し、敵陣22mからハーフウェイラインのエリアのトライが38%と最も高い値を示した。2007年度では敵陣5mから敵陣22m以内起点でのトライが9%を示したのに対し2008年度の本学は敵陣5mから敵陣22mのエリアから31%のトライが発生した。（表8）

4-4. トライへの軌跡

2008年度本学のトライまでの最短攻撃次数は0次、最長攻撃次数は11次とトライまでの攻撃次数となった。2007年度の本学は2次攻撃までに36%のトライが発生していた。2008年度の本学は2次攻撃までに56%のトライが発生していた。（表9）

4-5. トライまでのパス回数

2008年度本学のトライまでのパス回数は3回までに63%、5回までに76%のトライが発生した。2007年度も同様の値を示した。（表10）

4-6. トライまでの所要時間

2008年度本学のトライまでの所要時間は40秒以内でのトライが63%と多い結果となった。2007年度本学のトライまでの所要時間は40秒以

表7. 流通経済大学2008年度リーグ戦トライ起点と、2007年度リーグ戦トライ起点との比較

	2008 流通経済大学	2007 流通経済大学
MYスクラム	6 (38%)	2 (18%)
MYラインアウト	2 (12%)	6 (55%)
MYPK, FK	1 (6%)	1 (9%)
キック処理カウンター	6 (38%)	1 (9%)
相手ハンドリングエラー	1 (6%)	-
タックルターンオーバー	-	1 (9%)

※1トライ確認出来ず

表8. 流通経済大学2008年度リーグ戦と2007年度リーグ戦におけるトライ起点エリア

	相G-相5	相5-相22	相22-HL	HL-自22	自22-自G	TOTAL
2008流通経済大学	3	5	6	2	0	16
割合	19%	31%	38%	12%	0%	

※1トライ確認出来ず

	相G-相5	相5-相22	相22-HL	HL-自22	自22-自G	TOTAL
2007流通経済大学	5	1	4	-	1	11
割合	45%	9%	37%	-	9%	

表9. 流通経済大学2008年度リーグ戦、2007年度リーグ戦におけるトライ軌跡

	攻撃次数	0次	1次	2次	3次	4次	5次	6次	7次以上
2008流通経済大学	回数	1	5	3	1	2	2	1	1
	割合	6%	31%	19%	6%	13%	13%	6%	6%
2007流通経済大学	回数	1	2	1	2	2	1	-	2
	割合	9%	18%	9%	18%	18%	9%	0%	18%

内でのトライが54%であった。(表11)

4-7. 得点の時間帯

本学は後半にトライをする傾向があり、2007年度もほぼ同じ値を示した。(表12)

4-8. 失トライ数

本学のリーグ戦全7試合での失トライは29本であった。

4-9. 失トライ起点

2008年度7試合29本(2本映像確認できず)

のうち、トライを奪われた起点は相手ボールラインアウトと相手ボールスクラムが全体の42%を占めた。2007年度同様セットプレイを起点としたトライが多い。(表13)

4-10. 失トライ起点エリア

2008年度の本学は、自陣エリアでの起点が74%と高い値をしめし、2007年度でも同様に76%と高い値を示した。2007年度では自陣ゴールラインから自陣22mのエリアでの合計失トライが36%と示したのに対し、2008年度の本学は48%と高い値をしめした。(表14)

表10. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦におけるトライまでのパス回数

	パス回数	0	1	2	3	4	5	6	7以上
2008流通経済大学	回数	2	5	-	3	2	-	1	3
	割合	13%	31%	-	19%	13%	-	6%	19%
2007流通経済大学	回数	1	2	1	2	2	1	-	2
	割合	9%	19%	9%	18%	18%	9%	-	18%

※2008年度1トライ確認出来ず

表11. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度におけるトライまでの所要時間

	所要時間	5秒以内	6-10秒	11-20秒	21-30秒	31-40秒	41-50秒	50秒以上
2008流通経済大学	回数	1	1	3	2	3	1	5
	割合	6%	6%	19%	13%	19%	6%	31%
2007流通経済大学	回数	1	2	1	-	2	2	3
	割合	9%	18%	9%	-	18%	18%	27%

※2008年度1トライ確認出来ず

表12. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度における得点の時間帯

		前半	後半
2008流通経済大学	TRY数	4	13
	割合	24%	76%
2007流通経済大学	TRY数	4	7
	割合	36%	64%

表13. 流通経済大学2008年度リーグ戦失トライ起点と2007年度リーグ戦失トライ起点との比較

	2008 流通経済大学	2007 流通経済大学
相手スクラム	6 (21%)	7 (23%)
相手ラインアウト	6 (21%)	12 (40%)
相手PK, FK	5 (16%)	2 (7%)
キック処理カウンター	6 (21%)	4 (13%)
MYハンドリングエラー	-	5 (17%)
キックチャージ	2 (7%)	-
タックルターンオーバー	2 (7%)	-

※2トライ確認出来ず

※1トライ確認出来ず

表14. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦における失トライ起点エリア

	自G-自5	自5-自22	自22-HL	HL-相22	相22-相G	TOTAL
2008流通経済大学	7	6	7	6	1	27
割合	26%	22%	26%	22%	4%	

※2トライ確認出来ず

	自G-自5	自5-自22	自22-HL	HL-相22	相22-相G	TOTAL
2007流通経済大学	7	4	12	5	2	30
割合	23%	13%	40%	17%	7%	

※1トライ確認出来ず

4-11. 失トライ軌跡

2008年度本学の失トライまでの最短攻撃は0次, 最長攻撃次数は5次と失トライまでの攻撃次数となった。2007年度の本学は, 3次攻撃までに94%の失トライが発生していたのに対し, 2008年度は3次攻撃までに77%の失トライが発生した。(表15)

4-12. 失トライまでのパス回数

2008年度本学の失トライまでのパス回数は3回までに60%, 5回までに75%の失トライが発生した。2007年も同様の値を示した。2007年度

本学の7回以上の失トライは10%に対して2008年度本学は26%と高くなっていた。(表16)

4-13. 失トライまでの所要時間

2008年度本学の失トライまでの所要時間は20秒以内での失トライが63%と多い結果となった。2007年度本学の失トライまでの所要時間は20秒以内が30%と2008年度と2007年度では20秒を起点とすると, 対照的な結果となった。(表17)

4-14. 失トライの時間帯

本学は前半, 後半同様に失トライする傾向

表15. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦における失トライ軌跡

	攻撃次数	0次	1次	2次	3次	4次	5次	6次	7次以上	
2008流通経済大学	回数	5	12	2	2	3	3	-	-	※2トライ確認出来ず
	割合	19%	44%	7%	7%	11%	11%	-	-	
2007流通経済大学	回数	5	11	6	6	1	1	-	-	※1トライ確認出来ず
	割合	17%	37%	20%	20%	3%	3%	-	-	

表16. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦における失トライまでのパス回数

	パス回数	0	1	2	3	4	5	6	7以上	
2008流通経済大学	回数	7	3	1	5	1	3	-	7	※2トライ確認出来ず
	割合	26%	11%	4%	19%	4%	11%	-	26%	
2007流通経済大学	回数	8	2	4	4	4	-	5	3	※1トライ確認出来ず
	割合	27%	7%	13%	13%	13%	-	17%	10%	

表17. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦における失トライまでの所要時間

	所要時間	5秒以内	6-10秒	11-20秒	21-30秒	31-40秒	41-50秒	50秒以上	
2008流通経済大学	回数	2	5	10	4	2	2	2	※2トライ確認出来ず
	割合	7%	19%	37%	16%	7%	7%	7%	
2007流通経済大学	回数	-	2	7	13	5	-	3	※1トライ確認出来ず
	割合	-	7%	23%	43%	17%	-	10%	

表18. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦における失点の時間帯

		前半	後半
2008流通経済大学	TRY数	14	15
	割合	48%	52%
2007流通経済大学	TRY数	14	17
	割合	45%	55%

があり, 2007年度もほぼ同じ値を示した。(表18)

5. SET PLAY

5-1. ラインアウトの1試合平均回数

2008本学 2007本学
24回 33回

5-2. ラインアウトの再獲得率

2008本学 2007本学
9% 25%

5-3. スクラムの1試合平均回数

2008本学 2007本学
22回 21回

5-4. スクラムの再獲得率

2008本学 2007本学
27% 8%

5-5. キックオフの1試合平均回数

2008本学 2007本学
8回 8回

5-6. キックオフの再獲得率

2008本学 2007本学
14% 21%

(表19)

6. PENALTIES

6-1. 2008年度流通経済大学

合計ペナルティー数 86回
合計フリーキック数 1回

2007年度流通経済大学

合計ペナルティー数 52回
合計フリーキック数 0回

6-2. 2008年度流通経済大学

1試合平均反則数 12回

表19. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦におけるセットプレイ成功率

2008年度リーグ戦	7試合統計	成功	失敗	合計	成功率
ラインアウト (再獲得)	マイボール	73	21	94	78%
	相手ボール	7	71	77	9%
スクラム (再獲得)	マイボール	50	18	68	74%
	相手ボール	23	62	85	27%
キックオフ (再獲得)	マイボール	5	31	36	14%
	相手ボール	16	7	23	70%
2007年度リーグ戦	7試合統計	成功	失敗	合計	成功率
ラインアウト (再獲得)	マイボール	92	31	123	75%
	相手ボール	27	80	107	25%
スクラム (再獲得)	マイボール	75	5	80	94%
	相手ボール	5	57	62	8%
キックオフ (再獲得)	マイボール	8	30	38	21%
	相手ボール	16	4	20	80%

2007年度流通経済大学

1 試合平均反則数 7回

6-3. 2008年度流通経済大学

7 試合合計反則回数 161回

2007年度流通経済大学

7 試合合計反則回数 139回

2008年度流通経済大学

リーグ戦1 試合平均反則回数 23回

2007年度流通経済大学

リーグ戦1 試合平均反則回数 20回

6-4. ペナルティーの分類

2008年度本学の反則はラック、タックル周辺において高い値を示した。

2007年度も同様の値を示した。(表20)

I. レッドカード……0回

II. イエローカード…4回

(関東学院大学, 東海大学, 拓殖大学戦)

III. カードの内訳……不行跡, ペナルティーの繰り返し, 報復行為

2007年度流通経済大学7 試合中2 試合カードを提示された。

I. レッドカード……0回

II. イエローカード…2回

(立正大学, 法政大学戦)

III. カードの内訳……スタンピング, ラフプレイ

【考察】

7. RED AND YELLOW CARDS ISSUED

2008年度流通経済大学7試合中3 試合カードを提示された。

2008年度公式戦分析の結果, 2007年度(以下2007)と2008年度(以下2008)との間に顕著に差が現れたのは, トライ数とペナルティーゴール成功率である。ゲームに勝利するためには可能な限り得点を多く獲得する必要がある。分析結果から, 2008の合計得点は103得点であ

表20. 流通経済大学2008年度リーグ戦, 2007年度リーグ戦におけるペナルティーの内訳

反則名	オフサイド	ノットリリース	ハンド	ノットロールアウェイ	スクラムコラプシング	
数	16	11	9	7	7	
割合	18%	13%	10%	8%	8%	
反則名	オーバーザトップ	危険なプレー	ハイタックル	シーリングオフ	ノット10m	
数	6	5	4	3	3	
割合	7%	6%	5%	3%	3%	
反則名	アーリータックル	スタンピング	オブストラクション	インテンショナル・ノックオン	ヘッドアップ	不明
数	2	1	1	1	1	10
割合	2%	1%	1%	1%	1%	11%

2007年度リーグ戦

反則名	ノットリリース	ラインオフサイド	ノットロールアウェイ	ハンド	オーバーザトップ
数	14	6	5	5	4
割合	27%	12%	10%	10%	8%
反則名	ゲートオフサド	モールコラプシング	スクラムアングル	ノット10m	スクラムコラプシング
数	4	3	3	1	1
割合	8%	6%	6%	2%	2%
反則名	アーリータックル	スクラムフットアップ	ノット5m	その他	
数	1	1	1	3	
割合	2%	2%	2%	6%	

り、2007と比較して22得点増加した。得点比では、2008はTRYが82%、CGが12%、PGが6%であった。2007はTRYが68%、CGが10%、PGが22%であった。TRY数は、2007の11本に対し、2008は17本と6トライ増加した。ペナルティーゴール成功率は、2007では100%（6本中6本成功）と高かったが、2008では20%（10本中2本成功）と低かった。本年度の得点の増加は、TRYの増加によるものであった。TRY起点に着目すると、スクラムからが20%、キック処理カウンターからが29%と増加し、ラインアウトからが43%減少した。1試合の平均得点は、2007の11.6点に対して、2008は14.7点で3.1点増加した。1TRY得点所要時間は2007は50分54秒に対して、2008は32分54秒と18分短縮した。

またTRY起点エリアについても、相手5m-22mが22%、HL-自陣22mが12%と増加し、相手G-相手5mが26%減少した。これらはELVの影響によると考えられる。ELVにおいて、スクラム時のオフサイドラインが攻防側ともに5m後退し、有効な攻撃スペースが確保された。この攻撃の利を活用したといえる。またタッチキックの規制により、タッチの数が減少した。これにより、キックカウンターが増加したため、キックカウンターからのTRYが増加したと考えられる。攻撃次数をみると2次攻撃までに得点したものが56%であった。2007は36%で、2008は半分以上の割合で2次攻撃までにトライが発生している。トライまでのパスの回数は、2007はパス1回までにTRYが28%発生していたが、2008はTRYが46%発生している。トライまでの所要時間は、2007は40秒以内に54%発生、2008は63%発生している。2008は2007に比べ短時間に効率よく、トライが発生しているということが推測される。得点

者をみると、FW:BKの比は、2008は53%:47%、2007は73%:27%であった。2008ではBKプレイヤーのTRYが増加している。このことはELVによりキックカウンターなどが増加していることと関連していると考えられる。またELVにより、展開するラグビースタイルが多用されたこともその一因として考えられる。得点の時間帯については、昨年度と同様に後半の得点の割合の方が多かった。このことから前半の戦い方について課題が残ったといえる。

2008総失トライは29本であった。2007は31本であった。1試合の平均失点は、2007が29.1失点に対して、2008は26失点であり、3.1点減少した。

1TRY獲られるまでの所要時間は、2007は18分36秒に対して、2008は19分18秒と42秒増加した。失トライ起点では、昨年度セットプレイ（スクラム・ラインアウト）での起点は63%だったのに対し、今年度のセットプレイでの起点は42%と減少している。これは、モールを肩から腰の間なら引き倒してもよいというELVの適用によってラインアウトモールによるトライが減少したからだと推測できる。またPK・FKとキックチャージそしてタックルターンオーバーからの失トライが2007では7%に対して、2008は30%と増加していた。これは本学のミスから発生したTRYであり、改善が必要とされる。

また、失トライ起点エリアでは、自G-自22mでのトライが2007は36%に対し、2008は48%と増加した。失トライ次数は、2007が4次、5次での失トライが6%に対して、2008では22%と増加していた。また、失トライまでのパス回数は、5回以上が2007では27%に対して、2008は37%と増加していた。これは2007に比べ2008

はディフェンス能力が上昇傾向であったと推測できる。失トライの時間帯は前半、後半と同様の値を示した。前半、後半ともに課題が残る結果となった。

またセットプレイを比較すると今年度は昨年度に比べ、ラインアウトの再獲得率が大幅に減少しているといえる。スクラムに関しては、再獲得率は昨年度の8%に比べ今年度は27%と大幅に増えていることがわかる。しかしマイボール成功率は2007に比べ20%少なくなっていることがいえる。またラインアウト総数は2007が230回だったのが、2008では171回と大幅に減少している。これはELVの影響でタッチにボールが出ることが少なくなり、プレー時間の増加があったと考えられる。またペナルティーについて昨年度はノットリリースが27%と高い値を示していたが、今年度はオフサイドが18%と一番高い値を示した。その他には、ノットリリース、ハンド、ノットロールアウェイ、オーバーザトップ、が31%とラック・モール周辺でペナルティーが多くなっているのがわかる。そして今年度は昨年度に比べシンビンの数が、2回から4回に増えている。これはルールの徹底理解とレフリーとのコミュニケーションの改善が必要とされる。

【結論】

- ・2008の得点増加の要因はトライ数の増加によるものであった。
- ・ELVの影響でスクラムとキック処理カウンターを起点としたトライが増加した。
- ・トライの起点エリアは相手陣が88%であり、2次攻撃までに56%のトライが発生し、トライまでのパス回数は3回までに63%のトライが発生していた。
- ・2007に引き続き、前半に得点することが少なかった。
- ・キック成功率はペナルティーゴールの成功率が低い結果となった。
- ・失トライの起点は、PK・FK、キックチャージ、タックルターンオーバーなど、自チームのミスからが増加した。

参考文献

- 1) 伊藤武, 他 (2006) 2006年度シーズンにおける流通経済大学ラグビー部の公式戦ゲーム様相. 流通経済大学スポーツ健康科学部開設記念論集
- 2) 伊藤武, 他 (2007) 2007年度シーズンにおける流通経済大学ラグビー部の公式戦ゲーム様相. 流通経済大学スポーツ健康科学部紀要vol.1
- 3) 日本ラグビーフットボール協会 (2008) IRB実験的競技規則ガイド. 日本ラグビーフットボール協会HP
- 4) IRB (2003) WRC2003 STATISICAL REVIEW AND MATCH ANALYSIS. IRB Game Analysis RWC2003